

## デュロック種新系統「アイリスナガラ」の効率的飼養方法



愛知県農業総合試験場は、平成 12 年から岐阜県畜産研究所と共同で、デュロック種の系統造成に取り組み、7 年かけて新系統豚「アイリスナガラ」を開発しました。複数の県による系統造成は日本で初めての事です。

「アイリスナガラ」は、現在農家で利用されている「サクラ 201」に比べ、成長が早く背脂肪厚が適度という特長があります。この特長は交配して生まれた三元豚にも受け継がれ、出荷日齢、背脂肪厚とも「サクラ 201」を交配したものより優れています。また、ロースにサシが入りやすい傾向があります。子数が多く、繁殖性も良好です。

### 「アイリスナガラ」の特徴

- ・ 1 日に増加する体重が 1,024 g と、発育が極めてよい。
- ・ 背脂肪の厚さが 1.9 cm で、親豚として最適。
- ・ 性格がおとなしく、飼養管理しやすい

## アイリスナガラの飼養方法

アイリスナガラの雄は成長が早いため、飽食させるとどんどん体が大きくなってしまい、交配時に使いづらくなります。よって制限給餌する必要がありますが、成長段階で制限しすぎると骨や筋肉の発達を妨げ、貧弱な豚になってしまいます。6ヶ月齢の豚を導入したとき飼料は1日最低2kg必要です。その後、成長に応じて飼料の量を徐々に増やします。体重が250kgを超えたら、上限1日3kg与えれば十分でしょう。

雌は妊娠期に注意が必要です。デュロックは他の品種に比べ、肉付きが良いため分娩時、産道に子豚が詰まり易い傾向があります。分娩前に太らせすぎではいけません。よって、妊娠期間は制限給餌を行い、餌の種類にもよりますが、1日1.8kgの給餌量に留めましょう。B.C.S.(ボディコンディションスコア)を測定して3.5以上にならないように気をつけてください。初産の場合は、分娩時体重を200kg以下に抑えます。

デュロック種は品種特性として、呼吸器官が強いため、冬場乾燥した豚舎で飼養しても肺炎になりにくい傾向があります。一方、皮膚が弱いため、夏場直射日光に当たると日焼けによりスポットができたり、皮膚炎になったりします。また、コリネバクテリウムにも注意が必要です。そこで、夏場は特に注意して観察し、皮膚に異常があるようなら早急に皮膚炎の薬を塗布し、痒がって壁に体を擦り付け皮膚が捲けていたらヨードチンキで消毒します。コリネができた場合には、患部が十分軟らかくなってからメスで切開し中の膿を出して化膿止めをします。

## F1母豚の飼養方法

現在、愛知県内の系統豚の組合せは、WLDもしくはLWDがほとんどです。平成15年に開発したアイリスW2により、F1母豚の体形が若干大きくなったため、以前より給餌量を増やす必要があります。WL及びLW母豚には1日2.2kg与えてください。冬季には1割増量します。

ただし、ここで示した給餌量はあくまでも目安で、同じ給餌量で育てても、豚によって太るものもいれば痩せるものもいます。そこで、豚群全ての個体に同量の餌を与えるのではなく、B.C.S.を指標にして個体ごとに給餌量を調節します。特に妊娠後期は、太らせてしまうと難産など分娩事故の発生率が高くなるため、B.C.S.を3~3.5に揃えましょう。

## アイリスナガラの交配方法

アイリスナガラの雄を交配に使い始めるのは早くても7ヶ月齢からとします。あまり早くから使い出すと、馴致が難しいばかりでなく、寿命の短い種豚になってしまいます。また、1回使った後は最低でも2日間は休ませましょう。2度付けや3度付けをした場合には4日間以上は休ませてください。若いうちに酷使することも寿命を縮める要因になります。

## 人工授精について

種豚の酷使を避けるには、人工授精が有利です。保存液を使えば精液を1週間程度保存できるため、良く揃った豚を大量に生産できるメリットがあります。また、伝染性疾患の予防にも効果的です。アイリスナガラは、おとなしく乗駕欲があり、総じて扱いやすい豚ですが、人工授精を行う場合には、擬牝台の馴致を上手く行う必要があります。

### 馴致の注意点

#### 擬牝台に乗るまで気長に待つ

初めて擬牝台に乗るまでは時間がかかります。どうしても乗らない場合には、発情が来た雌に乗せてみたり、擬牝台に雌の臭いをつけてみましょう。待ちきれずに豚を蹴ったりするとそれがトラウマになり、ますます乗らなくなります。また、可能ならば雄の豚房に擬牝台を持ち込んでみてください。驚くほど早く乗るようになります。

#### 擬牝台に乗った雄を後ろから支えない

擬牝台に乗ったものの、ずり落ちてしまう豚がいます。そのような場合には、ついつい後から支えてしまいがちですが、毎回支えられることを期待して楽をする豚になってしまいます。「アイリスナガラ」の後肢は丈夫で、乗駕に十分耐えられます。豚が前肢を使い擬牝台を挟んでじっとするようになるまで待ってください。



#### ペニスはしっかり握る

「アイリスナガラ」は「アイリスL2」に比べ、ペニスが軟らかい傾向があります。ペニスを持って引き出す場合、しっかり握らないとうなぎが逃げるように上手くつかめません。薬指をペニスの溝に引っ掛けて抜けないようにし、力を入れて全体に圧力をかけましょう。この時小指も握ってしまうと、精液が出てくる穴をふさぐことになるので注意します。



#### 精液の量は少ない

使い始めのころの精液量は100ml程度と少なく不安になりますが、濃度が高いため希釈倍率を高めにとっても問題ありません。体が大きくなるにつれて徐々に精液量が増えてきて200ml以上になります。



### 人工授精の注意点

#### 精液は時間をかけて希釈する

採精した精液は希釈液で2～3倍に希釈します。精液は急激な温度変化や振動に弱いので、37℃に温めた希釈液をゆっくり複数回に分けて混合します。混合した精液はシリンジに50ml入れておきます。

#### 精液はなるべく漏らさないように雌に注入する

雌には飼料を給与したり、背圧をかけてじっとさせておき、陰部をぬるま湯で洗浄した後、アルコールを含ませた綿で消毒します。その後、カテーテルをゆっくり陰部に挿入します。カテーテルは消毒の手間や不備を無くすため、使い捨てが良いでしょう。子宮頸管を1つ2つ超えたら、シリンジをカテーテルにつなぎ、ゆっくり1分以上かけて精液を注入します。余り早く注入すると精液が漏れます。全部注入したらシリンジに空気を入れ、カテーテル内に残っている精液を空気中で中に押し込みます。精液が全て入ったらゆっくりカテーテルを陰部から引き抜きます。



## アイリスナガラの譲渡問い合わせ先：

畜産総合センター 〒444-0006 岡崎市丸山町字亀山 9-1  
0564-21-0201

### アイリスナガラとサクラ201の産肉成績

| 系統名     | 例数(頭) | 1日平均増体重       | 背脂肪厚(cm)    |
|---------|-------|---------------|-------------|
| アイリスナガラ | 116   | 1024.2 ± 78.1 | 1.90 ± 0.28 |
| サクラ201  | 46    | 799.1 ± 62.1  | 1.74 ± 0.20 |

検定期間 30～105kg

### アイリスナガラとサクラ201の繁殖成績

| 系統名     | 例数(頭) | 分娩頭数       | 生産頭数      | 離乳頭数      | 育成率(%)      | 生時体重(kg)    | 21日齢体重(kg)  |
|---------|-------|------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| アイリスナガラ | 28    | 10.9 ± 1.9 | 9.5 ± 2.2 | 8.8 ± 2.1 | 94.1 ± 11.6 | 1.35 ± 0.28 | 4.26 ± 1.02 |
| サクラ201  | 33    | 8.2 ± 3.0  | 7.8 ± 3.1 | 6.5 ± 2.4 | 81.7 ± 19.4 | 1.41 ± 0.17 | 3.98 ± 0.82 |

離乳は24～28日齢。

### F1(WL、LW)の繁殖成績

| 交配雄     | 例数(頭) | 分娩頭数       | 生産頭数       | 離乳頭数      | 育成率(%)     | 生時体重(kg)    | 離乳時体重(kg)   |
|---------|-------|------------|------------|-----------|------------|-------------|-------------|
| アイリスナガラ | 10    | 11.9 ± 2.5 | 10.2 ± 2.0 | 9.9 ± 1.7 | 97.6 ± 5.6 | 1.38 ± 0.28 | 5.11 ± 1.26 |
| サクラ201  | 5     | 11.8 ± 1.9 | 9.6 ± 1.9  | 9.2 ± 1.6 | 96.4 ± 5.0 | 1.40 ± 0.24 | 5.60 ± 0.73 |

離乳は20日齢。W=アイリス W2、L=アイリス L2

### 三元豚(WLD、LWD)の産肉成績

| 交配雄     | 性別 | 例数(頭) | 出荷体重(kg)    | 出荷日齢(日)      | と体長(cm)    | 背脂肪厚(cm)  | ロース断面積(cm <sup>2</sup> ) |
|---------|----|-------|-------------|--------------|------------|-----------|--------------------------|
| アイリスナガラ | 去勢 | 20    | 113.1 ± 2.2 | 154.8 ± 10.2 | 96.2 ± 1.9 | 1.9 ± 0.3 | 32.0 ± 4.2               |
| サクラ201  |    | 15    | 111.1 ± 3.3 | 160.2 ± 9.5  | 96.2 ± 2.7 | 1.7 ± 0.3 | 34.4 ± 4.5               |
| アイリスナガラ | 雌  | 21    | 112.7 ± 2.4 | 161.4 ± 9.3  | 97.1 ± 2.4 | 1.6 ± 0.2 | 33.0 ± 3.0               |
| サクラ201  |    | 6     | 109.9 ± 2.8 | 171.5 ± 7.4  | 97.3 ± 1.9 | 1.5 ± 0.1 | 35.0 ± 1.4               |



編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線 323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi>